



暑さに負けずに ～世代交流グラウンド・ゴルフ大会～

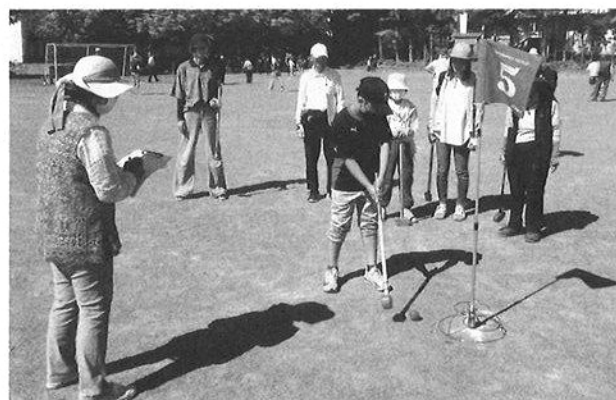
6月7日(土)第11回古牧地区世代交流グラウンド・ゴルフ大会が快晴の古牧小学校校庭で開催されました。

古牧グラウンド・ゴルフ協会の協力を得て役員を含め124名が参加し、109名が22組に分かれてプレーを行い、各組とも小学生と保護者及び一般参加者の組み合わせとなっていて一緒にプレーする中で世代交流が図られました。

競技は、2ラウンド16ホールの合計打数で順位を競います。打球が狙ったコースに決まった小学生の女子が「楽しい!」と声を上げて同組の母親と喜び合うなど、微笑ましい光景が数多く見られました。

午前10時過ぎには手元の気温計で31℃を記録しましたが、大会関係者が冷水機2台を用意するなど暑さ対策を徹底したため、熱中症などの病人や怪我人は一人

も無く、和気あいあいと楽しく無事にこの大会を終えることができました。(福祉健康部)



小学生の部 (40名参加)	1位	小澤 銀太	2位	土谷 悠真	3位	池田 航理
	4位	青山 優真	5位	小山なつの	6位	小野 恭輔
保護者の部 (28名参加)	1位	荻原 一晃	2位	藤本 達成	3位	片井 秀信
一般男子の部 (27名参加)	1位	伊藤 重通	2位	井原 達三	3位	山岸喜久夫
一般女子の部 (14名参加)	1位	松山喜久美	2位	中村 納子	3位	塚田 和子

長野盆地とのつきあい方 ～公民館部役員学習研修会～

6月14日(土)古牧公民館集会室にて公民館部役員学習研修会が開催されました。



今回は、戸隠地質化石博物館研究員田辺隆先生をお招きし「長野盆地とのつき合い方～特に古牧地区～」という演題でご講演いただきました。

千葉県出身の田辺先生は中学生の時に訪れた美ヶ原高原の景色に感動し、長野県の大学に進学されたとのこと。

講演では、海が隆起してできた長野盆地、約40万年からの飯縄火山の噴火や河川の氾濫など自然災害の脅威について解説がありま

次頁へつづく

した。一方で、肥沃な土地がもたらす稲作の発展や扇状地の発達による白桃・リンゴ栽培など自然との共存についても学ぶ貴重な機会となりました。

特に、古牧地区については素晴らしい自然や歴史を持つ地域であるものの災害をなくすことはできないため、過去から学び「減災」という未来を考えることの重要性が強調されました。ハザードマップの確認など身近なところから自然に対する備えをすることの重要

性について有意義なお話をいただきました。

休憩後には、地域公民館の発表が行われ、今回は、南高田・南長池・平林の館長さんから昨年度の活動報告がありました。各公民館では、様々な行事が盛大に行われ世代交流の場となっていることが報告されました。

しかし、その一方で少子高齢化や核家族化などの影響により公民館役員の担い手不足が大きな課題となっていることが、共通の課題として挙げられました。

(公民館部)

合同研修会を開催 ～日赤奉仕団古牧分団とたすけあい事業協力員～

6月23日(月)長野市赤十字奉仕団古牧分団と古牧地区たすけあい事業協力員との合同研修会が古牧公民館で開催され役員を含め29名が参加しました。

講師の日本赤十字社長野県支部長野市地区手塚和枝指導員から緊急時に必要な手当てができるように正しい知識と技術を身に付けるため「けがや傷の手当てに役立つ三角巾の使い方」「けが人の搬送や救護に役立つ毛布を使った担架の作り方」などを習いました。三角巾を八つ折りにして細長い包帯状にする作業では多くの参加者が苦戦していましたが、これはいざという時に役立つ大事な技法なのでぜひ習得したいと思いました。

(福祉健康部)



ゴルフ日和の中 楽しみました ～古牧親睦ゴルフ～

6月27日(金)第21回古牧地区親睦ゴルフ大会が、長野国際カントリークラブで開催されました。前日の雨とうってかわり心地よい風が吹く絶好のゴルフ日和の中126名が参加しました。昨年より個人戦に加え、各区上位4名による団体戦も行われました。真剣にプレーする中にも、笑い声が響く一日でした。参加された皆さま、お疲れさまでした。

(福祉健康部)



個人戦(新ペリア)

優勝	堀内貴至	女子の部優勝	三浦園子
準優勝	岡村 衛		
3 位	小林正樹		

団体戦

	グロス	新ペリア
優勝	上高田区	南高田区
準優勝	西尾張部区	平林区

※1 新ペリア=ハンディキャップを加味した打数の総計のこと。

※2 グロス=全ホールの打数の総計のこと。

自転車のルールを守って 安全運転を！！

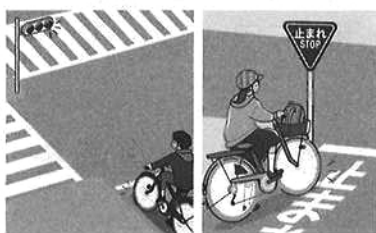
令和6年11月から自転車の罰則規定が強化されました。警察では自転車に乗る際の乗り方マナーについて注意を喚起しています。

自転車 五則 安全利用 を守りましょう！

令和4年11月1日、中央交通安全対策会議交通対策本部決定。
また、令和5年4月1日から全ての自転車利用者に対して、乗車用ヘルメットの着用が努力義務となっています。

2 交差点では信号と一時停止を守って、安全確認

信号、一時停止は必ず守り、道路を横断する際は、安全確認を行いましょう。



1 車道が原則、左側を通行 歩道は例外、歩行者を優先

自転車は軽車両に該当します。車道と歩道の区別がある道路では車道通行が原則です。道路の左に寄って通行してください。



3 夜間はライトを点灯

夜間、無灯火では、前方の安全確認ができません。また、周りからも見えにくくなり、大変危険です。



4 飲酒運転は禁止

自転車も、自動車の場合と同様に、お酒を飲んだときは、運転してはいけません。



5 ヘルメットを着用

乗車用ヘルメットは、交通事故時における被害軽減を図る重要な役割を果たします。こどもから大人まで、全ての自転車利用者が乗車用ヘルメットを着用しましょう。



(注) 歩道を自転車が通行できる場合

- 1 右の標識のある歩道
- 2 13歳未満の子どもや70歳以上の高齢者、身体の不自由な人
- 3 車道左側部分の通行が困難な場合、著しく交通量が多く自動車との接触事故の危険がある場合など

(出典：警視庁ホームページ)



「鼻取り地蔵」の絵馬

西和田郷土史研究会 中澤邦夫

西和田地蔵堂は、正徳年間（1711～1716）の造立といわれ、そのご本尊は延命地蔵です。

写真はそのご本尊と本堂に掲げられた絵馬です。絵馬は退色がすすんでいます。白い頭の若者と馬、馬鍬（まんが）を担いだ人物の代掻き風景と文字が描かれ、明治14年（1881）7月に奉納されています。

別名「鼻取り地蔵」「代掻き地蔵」ともいわれるご本尊への感謝の気持ちが汲み取れます。



延命地蔵

ご本尊の別名の伝説は以下のとおりですが、絵馬に書かれた文字は過去に解説され、古牧誌に掲載されています。

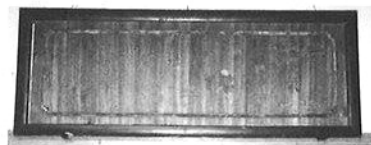
「むかし田植え時によその田は青田になっているのに一軒の田だけが馬の鼻取りがおらず、困っていたところ見知らぬ若者が馬の鼻ずらを取ってく

れ、無事代掻きが済んだ。家では夕食にかの若者を待っていたが、来ないので

探したところ馬小屋から濡れたわらじのあとが点々とあった。あとをたどると地蔵堂の中に消えており、地蔵さまの腰から下はびっしょり濡れていた」

ご本尊は、上記のほか「雨乞い地蔵」の別名もあり、昔からこの地区は慢性的に水不足で干天時は、白布に包んだご本尊を背負い夕暮れ時、裾花川の龍宮淵で地蔵さまと共に水に浸かり雨乞いの行をおこない霊験あらたかであったといえます。

田植えといいまた雨乞いといい、生活に根差したご本尊を守って、現在は区民のみなさんと「地蔵堂保存会」をつくり、毎年「地蔵盆」や「涅槃会法要」などを主催して伝統を未来に向けて繋いでいます。



絵馬

しゃばえんびつ



「ふるさとふれあい教室」の復活を

自分は以前、教養文化部会で開催した「ふるさとふれあい教室」にスタッフで参加した経験があります。公民館部の体育副部長でウォークラリーを担当して、会場の古牧小学校を中心に周辺の神社や地域の史跡や地理などからクイズを出題、コースを考えました。

同時に行った「ふれあいレクリエーション」は青少年育成部や子ども会が、「ふれあい昼食会」ではカレーライス作りを更生保護女性会がそれぞれ担当するなど、準備から実行まで各団体が協力して事業を盛り上げました。何度も現場に足を運び苦労もありましたが、参加した古牧地区の子どもや年配の方に楽しんでいただいたことが何よりの救いで、達成感を感じました。

その後、新型コロナウイルス感染症の影響により中止になってしまい、その間に役員も替わり、引継ぎやその経験を知らない役員など厳しい事情は理解できますが、第32回開催まで続いた歴史のある「ふるさとふれあい教室」の今後の復活を望んでおります。

(小島 安之)

7月から8月までの主な行事実施日のお知らせは回覧等でお知らせします。



古牧地区の世帯数と人口

令和7年7月1日現在

11,962 世帯

26,003 人

(男 12,834人 女 13,169人)

■発行所 古牧地区住民自治協議会
(電話259-8359・FAX219-1057)
(E-mail: komaki@vivid.ocn.ne.jp)

■発行者 柴 芳夫
■編集 ぷらネットこまき編集委員会
■印刷 (有)小池印刷

HP
ご覧ください